

〈H14-6-A : 問題〉

次の文は、正角円錐図法について述べたものである。 ～ の中に入る語句の組合せとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

この図法の正軸法の場合には、緯線は同心円で、経線は放射する直線で表され、南北方向の幅が 、東西方向の幅が 地域を表示するのに適している。

この図法には、標準緯線が一本の場合と、二本の場合がある。後者の場合の縮尺係数は、二本の標準緯線の内側では1より 、外側では1より なる。

この二本の標準緯線を用いる投影法を といい、国土地理院発行の1/500,000 地方図、1/1,000,000 国際図等もこの図法を用いている。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1.	狭く	広い	大きく	小さく	割円錐図法
2.	狭く	広い	大きく	小さく	接円錐図法
3.	広く	狭い	小さく	大きく	接円錐図法
4.	広く	狭い	大きく	小さく	接円錐図法
5.	狭く	広い	小さく	大きく	割円錐図法

〈H14-6-B：問題〉

次の文は、標準的な公共測量作業規程に基づいた地図編集について述べたものである。
ア～オの には記述の間違っているものが二つあるが、この組合せはどれか。次の中から選べ。

地図の編集では、 ア 作成する地図の目的に応じて 図式を設計する。地図の編集に使用する基図は、既成の地図のうち内容が新しく、必要な精度を有するものでなければならない。

基図の縮尺は、新たに作成する地図の縮尺より イ 小さく しなければならない。

地図の編集方式には、新たに作成する地図の縮尺に合わせ基図を ウ 縮小 して編集を行う
原寸方式と、基図の縮尺は変えず、地図記号を所定の倍率で大きさを変更して編集した後、その編集素図を縮小して新たな地図を作成する エ 縮小方式 がある。

作業の工程は、(1) 作業計画、 オ (2) 資料収集及び整理、(3) 図郭等の展開、(4) 編集原稿図の
 作成 、(5) 編集、(6) 成果等の整理、の順序で行う。

1. ア、ウ
2. イ、エ
3. エ、オ
4. ア、オ
5. イ、ウ

〈H14-6-C : 問題〉

図 6-1 と図 6-2 は、昭和 49 年と平成 9 年に作成された同一地域の国土地理院発行の 1/25,000 地形図(原寸大、一部を改変)である。図 6-1 と図 6-2 を比較すると陸地部分が増加していることが分かる。図 6-2 における増加した陸地部分の面積はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。
なお、図 6-2 の地形図の図郭線上には 8mm 間隔の目盛を付してある。

1. 0.86 K m²
2. 1.62 K m²
3. 2.28 K m²
4. 2.98 K m²
5. 4.56 K m²



図 6-1 (昭和 49 年修正測量)

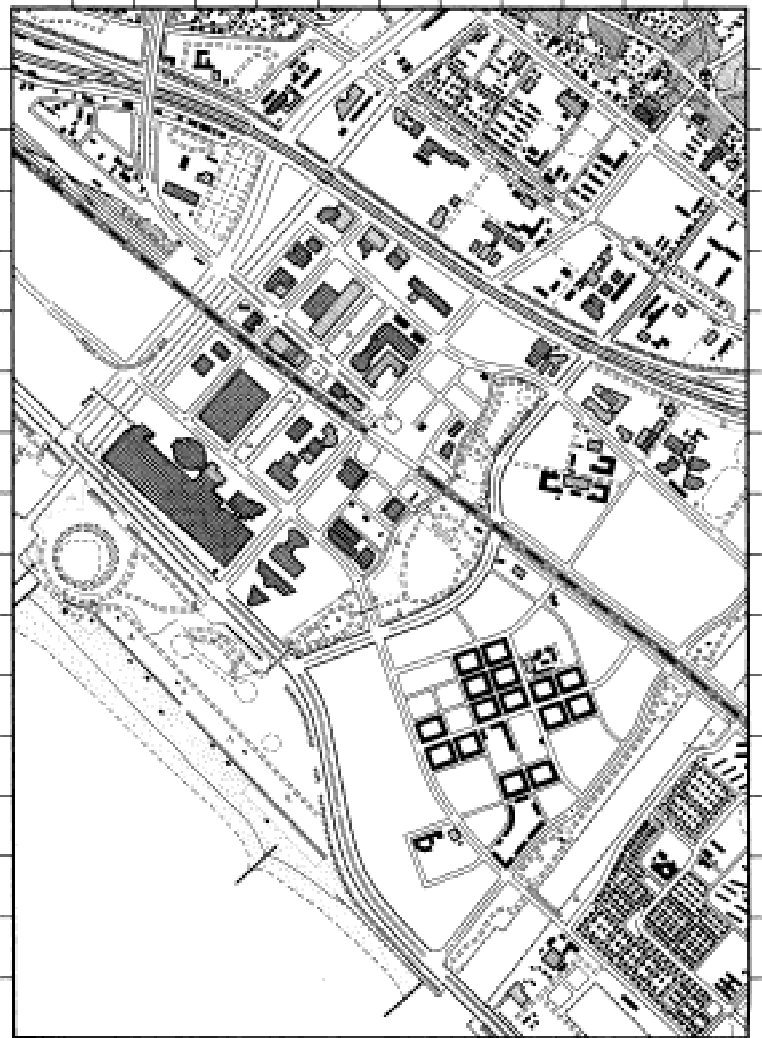


図 6-2 (平成 9 年修正測量)

※編集の関係で縮尺がずれている場合があります。ご了承ください。

〈H14-6-D : 問題〉

次の文は、DEM(数値標高モデル)について述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

ただし、DEM は、地形図上に一定間隔で描いた格子の代表点(格子点)の標高値を記録したものである。

1. DEM の格子間隔を小さくすると、地形の表現がより詳細になる。
2. DEM を用いて作成した等高線は、元の地形図の等高線と一致する。
3. DEM は二地点間の視通の有無を判断するために利用することができる。
4. DEM を用いて、地形の鳥かん図を作成することができる。
5. DEM を用いて、地形の断面図を作成することができる。